

コロサイ人への手紙 1:13-29 イエスはなぜ幼子として来られたのか？

この待降節の期間中、いくつかの聖書箇所からクリスマスについて皆さんが抱いているかもしれない疑問にお答えしています。先週の説教で言い忘れてしまいましたが、このアイディアは泉こういちろうさんからいただいたものです。彼は神学校の授業の一環で、教会で特定の奉仕活動を行い、それについて牧師と話す必要がありました。その中で私がやっていただいた課題の一つが待降節の説教シリーズの構想をまとめることでした。神様は彼を用いてこの説教シリーズを与えてくださいました。その功績はこいさんにあります。先週は「なぜ処女降誕なのか」という問いに応えました。その答えは、イエスが原罪を持って生まれることができなかったからです。今日の問いは少し違います。イエスはなぜ幼子として来られたのでしょうか。神はイエスを大人として地上に降臨させることがなぜできなかったのでしょうか。この問いに答えるため、イエスが真にどのようなお方だったのか、広い視点を持って見ていきたいと思います。そして、完全なる神であり、完全なる人であったイエスの内にその答えを見いだします。この真理を見るために、今日読む聖句はコロサイ人への手紙 1:13-29 です。

13-14 節から始まって、神がイエスを地に遣わされた目的、つまりこの世に対する神の摂理の究極の目的が示されています。「御父は、私たちが暗闇の力から救い出して、愛する御子のご支配の中に移してくださいました。14 この御子にあって、私たちは、贖い、すなわち罪の赦しを得ているのです。」神の究極の目的は、創造主に栄光を帰すことを最大の喜びとする民を贖うことを通して、ご自身の栄光を示すことです。神はその目的を、私たちの罪の贖いのため十字架で死なれたイエス・キリストを通して果たされることが、この箇所の後半で明らかになります。では、これまでに死んでいった人たちの死が成し得なかった、私たちの罪の贖いと赦しを可能とする点とは、イエスのどのようなところなのでしょう。それは、イエスが普通の人ではなかったからです。15-18 節を見てください。イエスの性質が三つの点で示されています。一つ目に、イエスは神として示されています。15 節はこう言っています。「15 御子は、見えない神のかたちであり、すべての造られたものより先に生まれた方です。16 なぜなら、天と地にあるすべてのものは、見えるものも見えないものも、王座であれ主権であれ、支配であれ権威であれ、御子にあって造られたからです。万物は御子によって造られ、御子のために造られました。」聖書は神を創造主として示し、さらに神の御子であるイエスを創造そのものに結び付けています。それは、福音書を書いたヨハネがヨハネの福音書 1:1-3 でイエスを紹介しているのと同じ方法です。ヨハネの福音書 1:1-3 「初めにことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。2 この方は、初めに神とともにおられた。3 すべてのものは、この方によって造られた。造られたもので、この方によらずにできたものは一つもなかった。」イエスが神のかたちであるということは、イエスが何か別の存在であるのではなく、文字通り同じ存在であることを意味します。ですが、私たちは霊としてではなく人の姿としてイエスを見ることが出来ます。ヨハネ 4:24 と第二コリント 3:17 は共に神が霊であることを示しています。ですが、私たちはイエスを見ることが出来ますし、この地でイエスと共にいた人たちは、人としてのイエスを見ることができました。見えない神は、御子イエスを通して肉を持った人として目に見える存在となりました。同じように、イエスがすべての造られたものより先に生まれたという言うのは、イエスが永遠なる方ではなく、造られた存在であるという意味ではありません。イエスは造られた存在で、父なる神に劣るとするアリウス派の異端に反論したニカイヤ信条採択の 1700 周年を祝ったばかりです。325 年にニカイヤ公会議においてこう宣言されました。「我らは、見えるものと見えざるものすべての創造者にして、すべての主権を持ち給う御父なる、唯一の神を信ず。我らは、唯一の主イエス・キリストを信ず。主は、御父より生れたまいし神の独り子にして、御父の本質より生れ、(神からの神[3])、光からの光、まことの神からのまことの神、造られずして生れ、御父と本質を同一にして、天地万物は総べて彼によりて創造されたり。主は、我ら人類の為、また我らの救いの為に下り、しかして肉体を受け人となり、苦しみを受け、三日目に甦り、天に昇り、生ける者と死ぬる者とを審く為に来り給う。また我らは聖霊を信ず。主の存在したまわざりし時あり、生れざりし前には存在したまわず、また存在し得ぬものより生れ、神の子は、異なる本質或

は異なる実体より成るもの、造られしもの、変わり得るもの、変え得るもの、と宣べる者らを、公同なる使徒的教会は、呪うべし。」呪うべしとは、それを非難するという意味です。これは新しい教義ではありませんでした。教父たちは、ただ神のみ言葉を読むことを通して、聖書が明確にしていることは、イエスが完全な神であり、父なる神と子なる神と共に永遠に存在される方であることを確信していました。けれど、この箇所を読み進めると、イエスは第二に王として示されます。17 節には「17 御子は万物に先立って存在し、万物は御子にあって成り立っています。」とあります。万物を創造された方が万物の王です。存在するあらゆるもの上にあり、世のすべてを秩序をもって保ち、時間や海流、季節を私たちが予測できるようにしているものは、聖書の世界観によれば、単なる科学的原理ではありません。そのすべてを支えておられるのは、人類が発見し、理解し続けている科学的原理そのものを造られた神です。そして、この神でおられるイエスは、ご自分の民の日常から遠く離れたところにおられる王ではありません。自らが設計し造った機械式時計の歯車のように、世界が動くのを眺め、ねじを巻く、単なる巻き手のような方でもありません。第三に聖書は、イエスがご自分の民、教会の頭であることを示しています。18 節にはこのようにあります。「18 また、御子はそのからだである教会のかしらです。御子は初めであり、死者の中から最初に生まれた方です。こうして、すべてのことにおいて第一の者となりました。」イエスが神であり王であるという事実は、世界中の人々の中でも特に神の民は、その主権に従うということを意味します。また、神の民は教会、特に世界中にある地域教会にあります。教会があるところでは、イエスがその頭であられ、その教会の方向性、目的、知恵の源であります。

なぜイエスは教会に対する権威において唯一無二なお方なのでしょう。父なる神と聖霊なる神もまた、教会に対する権威を持っておられるのでしょうか。もちろんです。ですが、イエスは特に被造物と教会の王であり頭として特別に示されています。それは、イエスのご性質がこの世で成し遂げられた御業からくるものだからです。19-23 節を見てください。「19 なぜなら神は、ご自分の満ち満ちたものをすべて御子のうちに宿らせ、20 その十字架の血によって平和をもたらし、御子によって、御子のために万物を和解させること、すなわち、地にあるものも天にあるものも、御子によって和解させることを良しとしてくださったからです。21 あなたがたも、かつては神から離れ、敵意を抱き、悪い行いの中にありましたが、22 今は、神が御子の肉のからだにおいて、その死によって、あなたがたをご自分と和解させてくださいました。あなたがたを聖なる者、傷のない者、責められるところのない者として御前に立たせるためです。23 ただし、あなたがたは信仰に土台を据え、堅く立ち、聞いている福音の望みから外れることなく、信仰にとどまらなければなりません。この福音は、天の下すべての造られたものに宣べ伝えられており、私パウロはそれに仕える者となりました。」これらの聖句はイエスを理解する鍵となります。19 節は 15 節に私たちを引き戻し、イエスが神であると示します。19 節はそのことを可能な限り明確にして、「神の満ち満ちたものをすべて」がイエスに在るといいます。つまり、イエスは完全に神でおられるのです。ですが 20 節では、この完全に神であられる方が血を流し、十字架で死なれたことを私たちに思い起こさせます。その死によって、神と「万物」に和解がもたらされたのです。ここでいう万物とは、すべての被造物であり、世にあるあらゆるものを意味するとも言えます。実際、聖書の終わりにある黙示録を読むと、すべてのものの終わりにあるのは、再生と完全なる回復であることが明らかです。エデンの園で罪によって失われたものは回復され、創造主との和解がもたらされます。そしてこの箇所では、それがイエスが十字架で死なれたことによって成し遂げられたと記されています。ですが、21、22 節ではさらに具体的に示されています。確かに究極的な回復が与えられるのですが、今は神から離れ、隔てられた状態で生まれる罪人たちに、個々に和解がもたらされます。処女降誕についての議論を思い出してください。私たちは皆、原罪をもって生まれます。私たちは、本質的にも、私たちの選択においても罪人です。神から離れ、敵意を抱き、悪い行いのうちにある者らというのは、私たち全員のことです。罪人の中でも最悪な者たちのことを言っているのではなく、全ての罪人のことです。また、私たちはローマ 3:23 から、すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができないことを知っています。社会が私たちの行動を認め、家族が認めてくれるなら、私たちは自分はそこそこ

良い人間だと思いがちです。だからこそ日本語の罪という言葉は、神の前にある私たちの状態ではなく、社会における他者との関係性に関わる言葉なのです。ですが聖書は明確に、神の目に私たちが皆神に敵対し、不変の罪のパターンに囚われていると示しています。事実、エペソ 2:1 が記しているとおりに、私たちは罪の中に死んでいるのです。

私たちの罪は、神との和解が必要であることを意味しますが、私たちはその罪ゆえに、自分たちの行いによって実際に神との和解を成し遂げることはできません。死んだ者が自分のためにできることは何一つありません。霊的に死んだ者である私たちすべてが、自らを救い、神との正しい関係、神との和解した関係を得るためにできることは何もないのです。ですが、福音の素晴らしい知らせが 21 節の「あなたがたも」という言葉に始まり、22 節にあります。「22 今は、神が御子の肉のからだにおいて、その死によって、あなたがたをご自分と和解させてくださいました。あなたがたを聖なる者、傷のない者、責められるところのない者として御前に立たせるためです。」この箇所では、イエスの人間性、御子の肉のからだについて述べています。私たちの救い、また和解は、イエスが私たちの罪のために、完全な人としての捧げものとして、死んでくださったという真理に基づくものです。イエスがご自分の罪のために死ぬ必要がない完全な人であったからこそ、それが可能となりました。処女降誕はイエスに原罪が無かったことを意味し、またイエスが完全に神であるという神性は、罪を犯さないという選択をすることができたことも意味します。それは私たちには到底不可能なことです。人として誘惑に耐え、愛と悲しみ、そして苦しみと死の痛みを理解されたイエスの完全な人間性こそが、私たちの救いを可能にしたのです。その犠牲は、イエスが罪のない人であったからこそ意味がありました。そのどちらもが可能となり真実となったのは、神であるイエスが、人間の幼子として地に来られた受肉の時でした。イエスの神性と人間性の完全な一致に十字架の働きは集約されます。完全な人となるため、イエスは人であることのあらゆる側面を経験しなくてはなりませんでした。私たちは大人として突然この世に現れるわけではありません。赤ちゃんとして生まれ、子どもとなり、思春期を経て大人となる過程をたどります。ですからイエスは、完全な人となり、罪のために唯一受け入れらる罪なき永遠の犠牲となるため、幼子とならなくてはならなかったのです。ですが、聖い人としてのイエスの犠牲の死は、私たち普通の人間にとって変革をもたらすために意図されたものであったことに注目してください。22 節の終わりに「あなたがたを聖なる者、傷のない者、責められるところのない者として御前に立たせるためです。」とあります。救いの目的は、単に罰から逃れるためではなく、私たちを神の御前に立たせるために聖なる者とするためなのです。そこには聖化というプロセスがあります。聖化とは救いの時にキリストの義が与えられるという一度限りの過程であると同時に、日々自分の主としてキリストに従い、聖さにおいてキリストの似姿へと成長することを選ぶ継続的なプロセスでもあります。クリスチャンであると言いながら、聖さにおいて成長することを望まなかったり、今も犯し続けている罪を悲しむこともない場合、実はクリスチャンではないかも知れません。福音は、ただ一度の決断をもたらすものではなく、日々、生涯にわたる変化をもたらすべきものです。そのことを 23 節に見ることができます。「23 ただし、あなたがたは信仰に土台を据え、堅く立ち、聞いている福音の望みから外れることなく、信仰にとどまらなければなりません。この福音は、天の下のすべての造られたものに宣べ伝えられており、私パウロはそれに仕える者となりました。」パウロの人生を変えた福音は、私たちの人生を変えるべき福音と同じです。そして、その福音とは、イエスが幼子となって私たちの罪の代価を払ってくださったという事実に基づくものです。

また、福音はパウロを変えたように、私たちも変えます。イエスのアイデンティティが私たちのアイデンティティを形作るのです。24-29 節を読みましょう。「24 今、私は、あなたがたのために受ける苦しみを喜びとしています。私は、キリストのからだ、すなわち教会のために、自分の身をもって、キリストの苦しみの欠けたところを満たしているのです。25 私は神から委ねられた務めにしたがって、教会に仕える者となりました。あなたがたに神のことばを、26 すなわち、世々の昔から多くの世代にわたって隠されてきて、今は神の聖徒たちに明らかにされた奥義を、余すところなく伝えるためです。27 この奥義が異邦人の間でどれほど栄光に富んだもの

であるか、神は聖徒たちに知らせたいと思われました。この奥義とは、あなたがたの中におられるキリスト、栄光の望みのことです。28 私たちはこのキリストを宣べ伝え、あらゆる知恵をもって、すべての人を諭し、すべての人を教えています。すべての人を、キリストにあって成熟した者として立たせるためです。29 このために、私は自分のうちに力強く働くキリストの力によって、労苦しながら奮闘しています。」24-26 節でパウロはキリストが自分のアイデンティティであること、つまりキリストの内にあることが自分にとって何を意味するのかを説明しています。それは、彼が開拓し、励ましている教会のために苦しむことでした。福音の奉仕は、神の言葉と直接結びつけられており、ここにいるすべての長老、また将来の長老や宣教師となる者たちにとって、福音の召しはみ言葉の奉仕への召しでもあります。宣教の働きと、時にみ言葉の奉仕に対する純粋な福音宣教ととらえられるものは、分けることができないのではないかと思います。単に福音の種をまいて、新しい芽が勝手に育つことを期待することはできません。神のみ言葉を完全に知らせるという目標を持つ必要があります。パウロにとって、それは異邦人、つまりユダヤ人以外の人たちが、神のみ言葉に触れ、それが宣べ伝える福音を得ることを意味しました。それがパウロがここで、また他の箇所でも語っている福音の奥義とは、異邦人もキリストのもとに来るユダヤ人と同じく、神に近づくことができるということです。ですが、神のみ言葉からのこの教えが目指す究極の目標は、28 節にあるように**キリストにあって成熟すること**だということに注目してください。私たちのアイデンティティは今やキリストにあってのみ見いだすことができます。イエス・キリストを通して神と和解したとき、それが私たちが何者であるかの核となります。ですから、キリストに従う者、キリストの弟子、あるいは単にクリスチャンということが、私の存在の核となります。そして、説教の教えや学び、成長を通して、神のみ言葉が私たちの人生に適用されるにつれ、イエス・キリストにある自分自身の存在について、より深く知り理解するようになるのです。私たちが人として経験するあらゆることを、神のみ言葉に明らかにされているキリストの視点を通して見るようになります。イエスは完全な人であられたので、人であることのあらゆる点について共感することがおできになります。それは、誕生から、幼少期また、家族や友達、喜びや悲しみ、そして苦しみから死に至るまですべてを自ら経験されたからです。人であることが何を意味するのかを理解するために、私たちは誰に目を向けるべきでしょうか。イエス・キリストに目を向けます。私たちを創造し、救いによる新生を通して私たちを造りかえてくださるかたに目を向けるのです。そして、この神が私たちのうちに働かれ、キリストの似姿に変えられる聖化という変化の過程において最も素晴らしい点は、私たちが自分の力で完全さや聖さを求め苦しむのではないということです。パウロはこの箇所の最後で、キリストが自身の内に成してくださった変化について語るとき、それがパウロの働きによるものではなく、**自分のうちに力強く働くキリストの力**によるものであることを述べています。イエスは、私たちを贖い、創造主である神と和解させ、ご自分のように聖なる者とするために幼子となってくださいました。私たちはただ、私たちのうちに力強く働き、ご自分に似た者と変えてくださるキリストに、日々自分を委ねるだけです。私たちは幼子ではなく、私たちが歩む道を歩まれたにも関わらず、罪を犯さず、私たちが真に主のうちに生きることを可能にしてくださる救い主に完全に従うため、自分の意思も、思いも、行いも、態度もすべて委ねるのです。祈りましょう。

Colossians 1:13-29 Why did Jesus have to be a baby?

During this Advent season, we are going through selected passages and answering some questions that you may have about Christmas. I forgot to do this in last week's sermon, but I want to give credit to Koi Izumi for this idea. He had a supervised ministry class for seminary that required him to do specific ministry work at the church and discuss those projects with me, and one that I gave him was putting together ideas for Advent sermon series. God used his work to guide this series of sermons, and I wanted to give him credit. Last week, we answered the question, "why the virgin birth." The answer is that Jesus could not be born with original sin. The question today is a little different. **Why did Jesus have to be a baby?** Why could God not just drop Jesus here on earth as a full grown man? In order to answer this question, I want to look at the broader picture of Jesus's identity – who he really was. **And in his identity as fully God and fully man, we see the answer to this question.** Our passage to see this truth today is Colossians 1:13-29.

Starting with verses 13-14, we see God's purpose for sending Jesus to earth, which is his ultimate purpose of his providence over this universe. ¹³ **He [God] has delivered us from the domain of darkness and transferred us to the kingdom of his beloved Son,** ¹⁴ **in whom we have redemption, the forgiveness of sins.** God's ultimate purpose is to glorify himself through the redemption of a people who find their greatest joy in bringing glory to their creator. He does this through Jesus Christ, who died on the cross to redeem us from our sins, which we will come to see later in this passage. And what is it about Jesus that makes it possible for him to redeem us and forgive us for our sins that all the other human death that has taken place could not do. It is because Jesus was no ordinary human. Look at verses 15-18 that describe **Jesus's identity** for us in three ways. *First Jesus is identified as God.* Verse 15 says, ¹⁵ **He is the image of the invisible God, the firstborn of all creation.** ¹⁶ **For by him all things were created, in heaven and on earth, visible and invisible, whether thrones or dominions or rulers or authorities—all things were created through him and for him.** The Bible identifies God as the creator, and now connects Jesus, the son of God, with the very act of creation itself. This is the same way the gospel writer John introduces Jesus in **John 1:1-3, In the beginning was the Word, and the Word was with God, and the Word was God.** ² **He was in the beginning with God.** ³ **All things were made through him, and without him was not any thing made that was made.** To say that Jesus is the image of God is not to say that he is something different, but rather he is literally the same being, but we can see Jesus in human form rather than spirit. John 4:24 and 2Corinthians 3:17 both tell us that God is Spirit, and yet we can see Jesus or those who were here on earth with him could see Jesus in a human way. The invisible God, becomes visible in human flesh through Jesus, God the Son. In a similar way, to say that Jesus is the firstborn of creation is not to say that he is created rather than eternal. We just celebrated the 1700th anniversary of the Nicaen Creed which answered the Arian heresy that said that Jesus was a created being and lesser than God the father. In response, in 325AD, the council of Nicaea declared in part that **We believe in ...one Lord, Jesus Christ, the Son of God, begotten from the Father, only-begotten, that is, from the substance of the Father, God from God, light from light, true God from true God, begotten not made, of one substance with the Father... But as for those who say, There was [a time] when He was not, and, Before being born He was not, and that He came into existence out of nothing, or who assert that the Son of God is of a different hypostasis or substance, or created, or is subject to alteration or change – these the ...Church anathematizes.** To anathematize is to

condemn. This was not a new doctrine. The church fathers simply through reading the Word of God knew overwhelmingly that the clear testimony of Scripture was that Jesus was fully God, who had existed from eternity along with God the Father and God the Son. But as this passage continues, *Jesus is secondly identified as king*. Verse 17 says, ¹⁷ **And he is before all things, and in him all things hold together**. The one who created the universe is king of the universe. Over all things that exist, what keeps everything in this universe running in an orderly manner so that we can predict time and ocean currents and the seasons, according to the world view of the Bible, is not simply scientific principles. Behind it all is the God who created the scientific principles we continue to discover and understand. And this Jesus, who is God, is not a king removed from the everyday of life of his people. He is not simply a clock winder who watches the world unwind like the workings of a mechanical clock with the design that he created in it. The Bible tells us thirdly that *he is the head of his people, the church*. Verse 18 says, ¹⁸ **And he is the head of the body, the church. He is the beginning, the firstborn from the dead, that in everything he might be preeminent**. Jesus's identity as God and king means that his people of all people in the world answer to his authority. And God's people exist in the church, specifically gathering in local churches all over this world. Where the church is, Jesus is the head, the source of direction and purpose and wisdom for that church.

Why is Jesus unique in his authority over the church? Is God the Father and God the Holy Spirit, are they also in authority over the church? Of course, but Jesus is specifically identified as king and head over creation and the church, because **Jesus's identity comes uniquely from his work he accomplished here on the earth**. Look at verses 19-23. ¹⁹ **For in him all the fullness of God was pleased to dwell,** ²⁰ **and through him to reconcile to himself all things, whether on earth or in heaven, making peace by the blood of his cross.** ²¹ **And you, who once were alienated and hostile in mind, doing evil deeds,** ²² **he has now reconciled in his body of flesh by his death**, in order to present you holy and blameless and above reproach before him, ²³ **if indeed you continue in the faith, stable and steadfast, not shifting from the hope of the gospel that you heard, which has been proclaimed in all creation^[b] under heaven, and of which I, Paul, became a minister**. These verses are key to understanding Jesus. Verse 19 is taking us back to verse 15, Jesus is God. Verse 19 makes that as clear as it can be **all the fullness of God** is in him. In other words, Jesus is totally God! But then verse 20 reminds us that this man who is totally God shed blood and died on the cross. That death brought reconciliation between God and **"all things."** Now, all things here could be all creation and everything in the universe. In fact, reading the end of the Bible in the book of Revelation makes clear that the ultimate end of all things is recreation and restoration to perfection. What was lost in the Garden of Eden through sin is restored and reconciled to its creator – and we are told here it is by Jesus dying on the cross. But verse 21 and 22 get more specific...yes, there is an ultimate restoration coming, but now there is an individual reconciliation that happens to sinners who are born alienated or separated from God. Think back to our discussion of the virgin birth- remember we are all born with original sin. We are sinners by nature and by choice. This description of people alienated and hostile against God, doing evil – that is all of us! This is not describing the worst of sinners, it is describing all sinners. And from [Romans 3:23](#), we know that **all of us have sinned and fall short of the glory of God**. If society approves our behavior and our families approve our behavior, we tend to think we are pretty good human beings. It's why the word, TSUMI, in Japanese is more related to our relationship with others in

society and not our condition before a god. But the Bible is clear that in God's eyes, we are all hostile to him, trapped in an unchanging pattern of sin – in fact [dead in our sins](#) as [Ephesians 2:1](#) tells us.

Our sin means that we need to be reconciled to God, but because of our sin, we cannot through any action on our part actually make that reconnection that reconciliation with God. A dead person cannot do anything for themselves, and a spiritually dead person, which is all of us cannot do anything to save ourselves and be in a right relationship, a reconciled relationship with God. But the wonderful news of the gospel is in verse 22, starting with the **And you** of verse 21, ²² **he (Jesus) has now reconciled in his body of flesh by his death, in order to present you holy and blameless and above reproach before him...** This verse now brings in the humanity of Jesus- **his body of flesh**. Our salvation, our reconciliation is dependent on this truth that Jesus died for our sins as the perfect human sacrifice for our sin. He could only do this if he was a perfect human who did not deserve to die for his own sin. The Virgin birth meant he had no original sin, and his deity, being completely God, meant that he also was able to choose not to sin, which none of us can do. But it was his full humanity that withstood that temptation, understood love and grief and ultimately the pain of suffering and dying, that then makes our salvation possible. His sacrifice only matters if he was sinless and human. Both of which became possible and true in the incarnation when Jesus, God, comes to earth as a human baby. His work on the cross centers on his perfect union of deity and humanity. In order to be fully human, he had to experience every part of what it meant to be human. We don't just appear in this world as adults. We go through being a baby and a child and adolescence and finally adulthood. This is why Jesus had to be a baby – to be fully human, to become the only acceptable sinless eternal sacrifice for sin. But notice that Jesus sacrificial death as a holy human was meant to be transformational for the rest of us regular humans. Verse 22 ends with, **in order to present you holy and blameless and above reproach before him.** The goal of salvation is not simply escape from punishment, it is making us holy in order to stand before God. This involves the process of sanctification. Sanctification is both a one time process that happens at salvation as we are given Christ's righteousness and an ongoing process as we daily choose to follow Christ as our Lord by obeying him and growing in holiness and Christlikeness. For the person who claims to be a Christian, but shows no desire to grow in holiness or grieve over sin we all continue to commit, it shows that we may not actually be Christians. The gospel is supposed to be making a daily, lifelong difference in our life, not just produce a one time decision. We see this in verse 23, ²³ **if indeed you continue in the faith, stable and steadfast, not shifting from the hope of the gospel that you heard, which has been proclaimed in all creation^[b] under heaven, and of which I, Paul, became a minister.** The same gospel that changed Paul's life is the same gospel that should change our lives. And that gospel is dependent on the fact that Jesus became a human baby to pay the price for our sin.

And just as the gospel changed Paul, it changes us. **Jesus's identity now forms our identity.** Read verses 24-29 ²⁴ **Now I rejoice in my sufferings for your sake, and in my flesh I am filling up what is lacking in Christ's afflictions for the sake of his body, that is, the church,** ²⁵ **of which I became a minister according to the stewardship from God that was given to me for you, to make the word of God fully known,** ²⁶ **the mystery hidden for ages and generations but now revealed to his saints.** ²⁷ **To them God chose to make known how great among the Gentiles are the riches of the glory of this mystery, which is**

Christ in you, the hope of glory.²⁸ Him we proclaim, warning everyone and teaching everyone with all wisdom, that we may present everyone mature in Christ.²⁹ For this I toil, struggling with all his energy that he powerfully works within me. From verse 24 to 26, Paul is describing what Christ being his identity, in other words being, in Christ, means for him. It is suffering for the gospel on behalf of the churches that he has planted and helped to encourage. That ministry of the Gospel is tied directly to God's Word, and for all the Elders in here or potential Elders or missionaries, the gospel call we have is a call to the ministry of the word. I don't believe we can separate the work of missions, what some may see as pure gospel work to the ministry of the Word. You can't just plant the gospel seeds and expect new plants to grow on their own. You need to have a goal to make the **Word of God fully known!** To Paul, this meant that the Gentiles, non-Jews, would have access to that Word of God and the gospel it proclaimed. That is the mystery of the gospel that he talks about here and in other places – the gentiles have as much access to God as the Jews who come to Christ. But notice that the ultimate goal of this teaching from the Word of God is **maturity in Christ**, verse 28. Our identity is now uniquely found in Christ. That is the core of who we are when we are reconciled to God through Jesus Christ. So my identity as a Christ follower, a disciple of Christ, or what we simply say, a Christian is who I am at my core. And as the Word of God is applied to my life through preaching and teaching and learning and growing, we come to know and understand more about who we are in Jesus Christ. Everything we experience as a human, we come to see through the eyes of Christ as revealed in God's Word. Jesus, because he is fully human, can identify with every aspect of being human, because he went through every part of it, birth, childhood, family, friends, joy, grief, suffering and death. Who do we look to in order to find our understanding of what it means to be human? We look to Jesus Christ. We look to the one who created us, and who recreates us through the new birth of salvation. And the most incredible aspect of this change, this sanctification, this becoming more and more like Christ that God is working in us – is that its not me struggling for perfection or holiness on my own. Paul closes out these verses that tell the transformation and work that he has seen Christ work in him, by point out that is not Paul's work, but Jesus, who **powerfully works within me**. Jesus became a human baby to redeem us, to reconcile us to God our creator, and to make us holy, like himself. We simply surrender to Christ everyday who is powerfully working in us to make us more like himself. We surrender our wills, our thoughts, our actions, our attitudes to be fully obedient, not to a baby, but to our Savior who has been where we are, but with no sin, and makes it possible for us to truly live in Him. Let's pray.